



# 中央ウェイ

## 2月号

### ～地域とのつながりの大切さ～

副校長 田村 香

令和6年がスタートして1カ月が過ぎますが、1月1日は能登半島を震源とする大地震が発生し、1月2日は羽田空港で航空機衝突事故が発生しました。それらの災害に被災された方、また関係者の方に心よりお見舞い申し上げます。また一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

航空機衝突事故の際に、客室乗務員による正確な避難誘導が報道されました。不測の事態が起きた際にも状況を瞬時に把握し、的確に避難誘導を行うには日々の訓練の大切さを改めて感じました。乗客も客室乗務員の指示に従い、助け合いながら避難ができたと聞いています。災害はいつ起こるか分からないことですが、自助だけでなく、地域との共助も重要になってきます。本校では、災害時に向けて地域や関係機関と情報交換をおこなっていますが、本校の特色を伝え、協力いただきたいことを具体的に説明することや、本校が地域に提供できることなどを共有することが大切だと改めて感じました。そういったことは日々の関係の中で築かれていくものではないかと思えます。

話は変わりますが、交流教育連絡会の話を少し書かせていただきます。本校は杉並区立向陽中学校、東京都立杉並総合高校が交流校です。連絡会は年2回程度ですが、年間を通して文化祭や部活動などで交流をおこないます。コロナ禍でできなかった交流も少しずつ戻ってきています。

先日は、東京都立杉並総合高等学校と今年度の取り組みの報告や、次年度の交流についての話し合いをしました。その中で、東京都立杉並高等学校は海外学校間交流推進校として複数の国と交流をおこなっていることや、毎年外国人留学生を受け入れていることの紹介がありました。海外への修学旅行も再開予定とのことで、国際理解教育の充実に驚かされました。本校からの話題提供としてはデフリンピックに向けた取り組みを紹介する中で、デフリンピックについて知ってもらったり、国際手話を含めた情報保障について関心をもったりしていただきました。お互いに近くにある学校ながら、改めて話を伺うことで各校の特色や文化を知る機会となりました。次年度に向けて部活動の交流の方法や、デフリンピックプレ大会でのボランティアなど、交流の可能性についていろいろな意見交換ができました。短い時間ではありましたが、お互いの学校の特色や、提供できる資源を確認したり、交流校の興味、関心がどこにあるかを知ったりすることができ、次年度につながる会となりました。

とりとめのない話になってしまいましたが、自分を知ってもらうこと、相手を正確に知ることが、協力、交流の基本だと改めて感じると同時に、日ごろからの関係作りが大切だと感じました。